



2017年6月

株式会社三井住友銀行 CA本部 企業調査部  
香港駐在 神谷 直良

## 調整局面が懸念される中国スマートフォン向け電子部品

中国スマートフォン(以下、スマホ)メーカーの一部の大手では 2016 年後半頃より生産量を急速に拡大、搭載部品の高機能化も進めており、日本企業を含め先端品を扱う電子部品メーカーにとっての事業機会となっています。一方、中国スマホメーカーは 17 年以降、中国市場での拡大余地が小さくなるなかで、アジアの新興国でも中国と同様に販促費を投入してさらなる事業拡大を図っていますが、これが奏功するかは見通しにくく、生産拡大トレンドから 2017 年半ば頃までには調整局面に転じる可能性もあります。このため、電子部品メーカーにとって、納入先の生産・販売見通し等が注目されます。

### 中国スマートフォン業界の需要動向・競争環境

中国スマートフォン(以下、スマホ)市場は、携帯電話全体の人口普及率が 9 割に達するうえ、携帯ユーザーに占めるスマートフォン利用者も 8~9 割(2016 年末時点)相当と成熟しています。

2016 年には、①中国スマホメーカーの大手が小売店宛ての販促費を拡大させたこと、②中国の携帯キャリアが消費者による高速通信(LTE)対応端末への買い替えを促進すべく端末販売奨励金を積み増したこと、等から、利用者によるスマホの買い替え期間が短くなり販売台数は前年比+8%と増加しました。ただし、さらなる買い替え期間の短期化は見込み難しく、販売台数は 2017 年には前年比で横

ばいなしし微減になるとみられています。

また、中国スマホメーカーの競争環境をみれば、①米国・台湾等の半導体設計メーカー大手がスマホの設計図(いわゆるレファレンスデザイン)を公開し、スマホを設計・生産する難易度は低くなっていること、②製品の部品調達・組み立てを製造請負企業(EMS・ODM)等に外注することが可能であること、等から、参入障壁は低く、新興メーカーの台頭等により市場シェアが変動しやすい構造にあります。

### 中国スマートフォンメーカー大手の生産・販売拡大計画

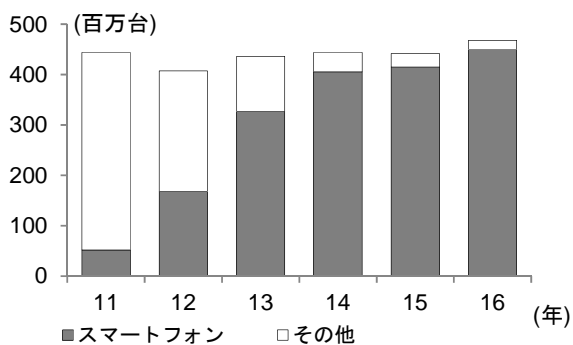
こうしたなか、中国スマホメーカーの一部の大手は、中国スマホ市場において急速にシェアを伸ばしています。製品面では、①高速充電や高級感のあるデザイン等の仕様を打ち出していること、②電子部品のうち(中央演算半導体等)一部部品の性能・価格を抑える一方で、高精細・狭額縁のディスプレイパネルの採用や、カメラレンズの 2 個搭載を進める等、消費者に訴えやすい部分を中心に部品を高機能化させていること(これに伴いメモリ半導体も大容量化)、等の特長があります。ただし、シェア拡大の背景としてはむしろ、メーカーから小売店に付与する端末販売奨励金を高水準に設定するほか、1・2 級都市の大規模なスポーツイベント等のスポンサーになりブランド認知を高める等、巨額の販促費を投入してきたことが挙げられます。

こうしたメーカーによる今後の販売動向としては、中国での販売台数拡大の余地が小さくなると見込まれるなかで、アジアの新興国にて中国と同様に販促費を積極投入することでブランド力を引き上げ、販売価格 200 米ドル程度の低価格端末を中心に販売を拡大、2017 年にも大幅な販売台数の拡大を見込んでいます。

### 電子部品メーカーの需要拡大

電子部品業界では、中国スマホメーカーが今後の成長を前提に足元で生産を拡大させているうえ、上述の部品の高機能化もあり、先端品を扱う電子部品メーカーにとっては事業拡大の機会となっています。また、ディスプレイや半導体等一部の部品において、中国スマホメーカーからの発注量拡大ペースに供給が追い付かず需給がひっ迫しています。これを受けて、中国スマホメーカーは部品調達量を確保すべく、実際の生産量を超える量の部品を発注・調達している模様です(いわゆる重複発注・調達)。これに伴い電子部品メーカーは 2016 年後半頃より受

中国携帯電話端末の市場規模



(注) スマートフォンは、携帯電話端末のうち Android OS、iOS 搭載機の合計。

(出所) Gartner 社 “Market Share: Final PCs, Ultramobiles and Mobile Phones, All Countries,

4Q16” (2017 年 2 月 14 日) Gartner リサーチの値を基に弊社グラフ作成。

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的または機械的な手段を問わず、無断での複製または転送等することを禁じております。

注・売上を急速に増加させています。

### 中国スマートフォンメーカーによる生産調整の懸念

しかしながら、中国スマホメーカーの販売拡大計画に対しては、①中国・東南アジアでの巨額の販促費投入を続けられるか見通しにくいこと、②アジアの新興国では 200 米ドル端末に対する需要量は中国と比べて限定的であるうえ各国での地場メーカーとの競合にさらされるとみられること、等の指摘があります。このため、販売拡大ペースが下振れ、生産拡大トレンドが 2017 年半ば頃までに生産調整に転じる可能性も懸念されています。こうしたなか、スマホメーカーが重複発注・調達を解消することで、電子部品メーカーの受注・納入量はスマホメーカーの生産減少幅を上回って縮小する懸念もあります。

足元で生産を拡大する中国スマホメーカーは日本製の先端品を積極的に採用しているだけに、日本の電子部品メーカーにとっては事業機会が拡大する一方で、生産調整の影響を大きく受ける可能性もあります。こうしたなか、日本の電子部品メーカーのなかには、供給不足のなかで中国スマホメーカーと 1 年程度の販売契約を結ぶ会社も出て来ています。電子部品メーカーにとっては、中国スマホメーカーごとの生産・販売台数の見極めや販売契約等による納入数量の確保といったリスクマネジメントが重要となり、取り組みが注目されます。(神谷)